

令和

6

年度

事業者番号0218

事業所番号021806

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C
C	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	富士見中継ポンプ場
事業所所在地	市区町村 富士見市
	字・地番 大字水子2934番地の1
産業分類名(中分類)	36 水道業
分類番号(中分類)	36
事業活動の概要	事業内容 主な事業内容：荒川右岸流域の下水処理 令和5年度流入水量：139,126.95(千m ³ /年)

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO ₂ (必須)	基準排出量に対し、令和2～5年度は13%、6年度は20%以上削減する。(必要に応じて、排出量取引を活用する)				
	その他ガス					
エネルギー起源CO ₂ の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	13,225	t-CO ₂			
	削減目標量(計画期間合計)	2,225	t-CO ₂	事業所区分	第2区分	

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO ₂ (必須)					
	その他ガス					

3-1 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	1,694	1,588	1,583	1,515	

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO₂換算（t-CO₂）

		計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エ ネ ル ギ ー 起 源 CO ₂		3,355	3,142	3,138	3,000	
	前 年 度 比（％）	—	-6.3	-0.1	-4.4	
そ の 他 ガ ス	非 エ ネ ル ギ ー 起 源 CO ₂					
	メ タ ン					
	一 酸 化 二 窒 素					
	ハ イ ド ロ フ ル オ ロ カ ー ボ ン					
	パ ー フ ル オ ロ カ ー ボ ン					
	六 ふ っ 化 い お う					
	三 ふ っ 化 窒 素					
温 室 効 果 ガ ス の 合 計		3,355	3,142	3,138	3,000	

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO₂）CO₂換算（t-CO₂/指標）

		計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エ ネ ル ギ ー 起 源 CO ₂ 排 出 量 原 単 位		0.0212	0.0209	0.0215	0.0216	
	前 年 度 比（％）	—	-1.5	3.0	0.2	
活 動 規 模 の 指 標	単 位					
流入水量	1000m ³ /年	158,240.21	150,386.36	145,824.16	139,126.95	

（４）エネルギー起源CO₂排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	有
気象レーダーが廃止となり、気象レーダー用非常発電機（軽油仕様）が併せて廃止となった。 令和元年度と比較して、令和2年度は排出量が減少した。 流入水量が減り、ポンプ稼働時間が減って電力使用量が減少したため						
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
流入水量の減少に伴い、汚水ポンプ運転時間が減少し、電力使用量が減少した。 令和2年度と比較して、令和3年度は排出量が減少した。						
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
令和3年度と比較して、令和4年度の排出量はほぼ同量であった。 上流の管渠の事故のため、汚水を貯留する平準化運転が難しくなりポンプのバランスのいい運転が出来なかった。しかしながら、流入水量が減少したため、電力使用量等が増加することはなかった。						
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
揚水量が昨年より減少したが、原単位で計算すると昨年とほぼ同様の状態であった。中継ポンプ場の主要機器は汚水ポンプであり、汚水ポンプ7台中3台がインバータ化している。管内に汚水を貯めて夜間電力を使用する運転も実施済みであり、さらなる削減は難しい状態である。						
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	3,090	t-CO ₂ /年
基準排出量の検証	実施済	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO ₂ / 年)
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位：t-CO₂)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	3,090	3,090	3,090	3,090	3,090	15,450
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定						
	目標削減率(B)	13.00%	13.00%	13.00%	13.00%	20.00%	
	排出上限量 ($C = \Sigma A-D$)						13,225
	排出削減目標量 ($D = \Sigma (A \times B)$)						2,225
実 績	エネルギー起源 CO ₂ 排出量(E)	3,355	3,142	3,138	3,000		12,635
	削減率 ($F = (A - E) / A$)	-8.58%	-1.68%	-1.55%	2.91%		—
	排出削減量 ($G = A - E$)	-265	-52	-48	90		-275
各年度の排出量の検証		実施済	実施済	実施済	未実施		

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分				
1	360700		ポンプ、ファン、ブローワー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	汚水ポンプ 揚水量を効率的な台数組合せ運転を行う（第3計画期間継続中）	R2	
2	490100		その他	49_排出量取引	必要に応じて、排出量取引を活用する	R7以降	
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄

なし